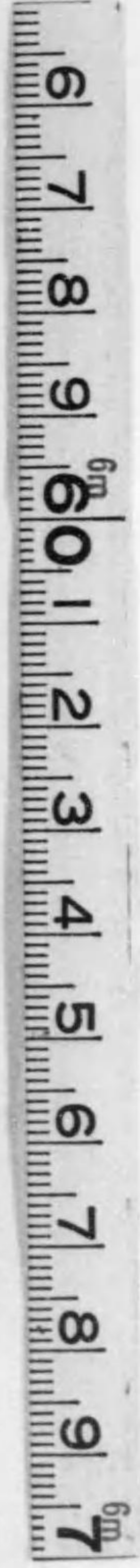


植民讀本

327

768



始





327-768



植民讀本目次

第一章 本論

一 國運の隆盛と海外發展	一
二 帝國の使命と植民	三
三 長野縣の人口	六
四 長野縣の耕作面積	八
五 長野縣一人當り耕作反別の減少	一
六 農村疲弊の現状	三
七 農村の救済は農家耕作反別の増加にあり	五
八 植民思想の普及	八
九 海軍と願兵と海外發展	三
一〇 植民者の心得	五
一一 植民と精神上的の利益	六
一二 植民と社會上の利益	九
一三 植民と經濟上の利益	一〇
第二章 各論	
一 朝鮮	三六

植民讀本目次

二 滿州	四〇
三 支那本部	四二
四 樺太	四三
五 臺灣	四三
六 フイリツピン群島	四四
七 セレベス	四四
八 ボルネオ	四五
九 馬來半島	四五
一〇 スマタラ	四五
一一 瓜哇	四五
一二 モルツカ群島ニューギニア	四五
一三 濠洲	四五
一四 其他の南洋諸島	四五
一五 印度支那半島	四五
一六 亞米利加合衆國	四五
一七 カナダ	四五
一八 メキシコ	四五

4. 12. 15
内交

一九ベルウ (秘露) 三
 二〇智利 三
 二一アルゼンチン 六
 二二ブラジル 六

附表

一 植民地 圖 口繪
 一 最近三十年間長野縣耕地増減率表 三
 一 最近三十年間更級郡人口耕地増減率表 七
 一 海外各地在留本邦人比較表 七
 一 世界移民國每年移出者比較表 六

植民讀本

第一章 本論

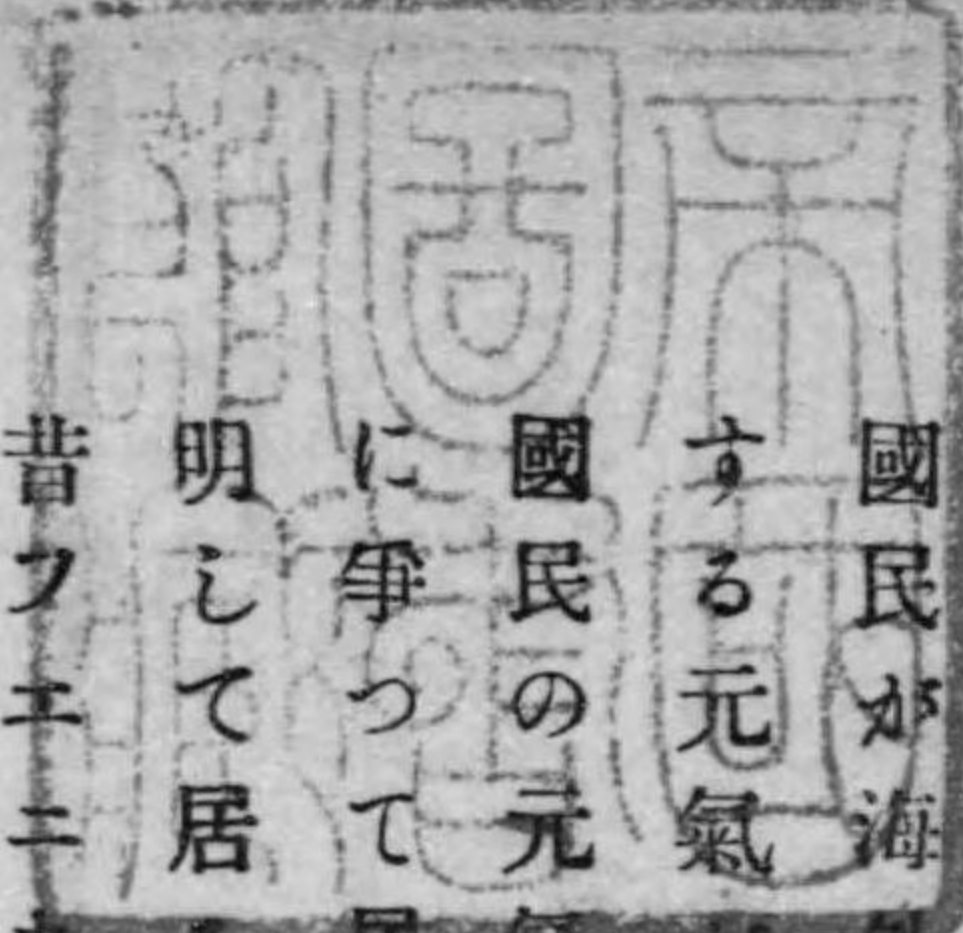
一 國運の隆盛と海外發展

國民が海外萬里の波を乗りきつて寶の山に上り、國土を擴めようとする元氣が溢れて居ると、國運が隆々として盛んになり、之に反して、國民の元氣が萎微して、青年が姑息苟安で國內に縮まつて蝸牛角上に争つて居る様になると、其の國が衰へる。これは世界歴史がよく證明して居る。

昔フエニキヤの盛んになつたのも、ベルシヤ、ギリシヤ、ローマの榮えたのも、皆海外通商植民航海の盛んな爲であつたが、海上の覇權を奪はれたら忽ち其國が衰へてしまつた。

我が足利時代の末、ホルトガル、イスバニアが海上に雄飛して亞米利

327-765



加を發見し、續いて、喜望峰を廻つて印度南洋に來た以來、其の國勢が盛んにあつて天下之に敵する事が出來なかつた。次でオランダが遠征の雄圖を懷いて南洋に勢力を張り、今日も尙大なる領土を持つて居る。所が國民に植民的元氣が失せてからは海上の勢力が英國に移つて今日英國は其の領土に太陽の没するところが無いといふ大國とつて居る。

殊に明治十年以來こゝ三十年間歐米列國に植民熱が盛んに起り、競つて海外膨脹政策を取り、植民地の擴張が國家の尤大なる仕事となつて、民族の發展を企圖する所から今日の大戦亂にもなつて居る有様で、古今を通じて世界の重大なる問題は常に海外發展の運動である。

今や我國も此競争舞臺に立つて居るから常に眼を海外に注いで民族發展の爲に盡す覺悟がなくてはならぬ。

二 帝國の使命と植民

我が日本人種が神代の昔から植民的能力に富めることは古事記や宣命によく現はれて居る。神功皇后の三韓征伐から、遠くは倭寇八幡船の支那印度蹂躪の如き、或は豊公遠征の如き、或は山田長政の暹羅に於けるが如き、何れも皆日本民族の植民的能力と海外雄飛の氣魄とを知ることが出来る。不幸にして其の方法が農業的でなかつたのと徳川氏三百年の鎖國政策とは斯の如き有爲なる日本民族の特性を發揮させる機會を失なはしめたが、今や明治大正の維新によつて漸く長夜の眠から覺めて其の特性を發揮しようとする時代となつた。

嘗て無人の境涯であつた北海道には已に百五十萬の人口を移し、更に臺灣に到つては十數年にして經濟的獨立の域に達せしめ世界列

國をして日本民族は植民的非凡の天才を有すると讃嘆せしめ、更に朝鮮樺太を収めて祖先交渉の歴史に一段落を劃し、今や滿蒙西方祖先墳墓の土地に利權を占めて、沃野茫茫天に連る所十萬の民を移して日本民族性を固着發育せしめ支那四百餘州の運命を長へに支配せんごし、南は椰子花咲き、檳榔薰る裏南洋一帶の地を略して赤道直下に延長し、南洋寶庫を探る第一歩を開鑿した。内は戸口日に繁殖して已に六千萬を越え植民的發展の元氣身に益々加はり、外は地を拓く萬里、已に赤道より北緯五十度に達し、急轉直下の勢將に那邊に達せんごするか殆んど圖るごごが出来ない有様である。只祖宗の御遺勅に従ひ、天の下四方の國は落つることなく漏るごごなく、青雲の棚引く極み白雲の向ぶす限り壽ほぎ仕へ奉らしむべきである。然して南は南極に達し南洋の大寶庫を開掘して無限の富を吸収し、北は北極に伸びて滿蒙一帶の平野に大勢力圏を劃し、西は支那四

百餘州を誘導して我が民族の活動場ごし、東は北米と和親して中米南米に我が民族を移し、大平洋を以て我が池ごするの大抱負大理想は實に日本民族の使命で又我が日本の國是である。四海を平定し威八紘に振ふご詔らせ給はつた祖宗の御遺訓を發揮するは至忠至孝の極で、大正の盛代に生れた吾等は茲に大勇猛心を振ひて大に植民の主張ご其の實行ごに當るべきではないか。智ある者は智を以て進め、勇あるものは勇を以て進め、國家は劍に由つてのみ發展するものではない、眞に國家の發展を期するには須らく鉄鎌に依つて土地を開拓し算盤を持つて蠻海煙雨を渡らねばならぬ。南洋の富、滿蒙の平野、東亞の海陸、太平洋の彼岸、渺茫漠々、以て日本民族の到るを待つて居る。徒らに故山墳墓の地に戀々たるは日本民族の本懐でない。蝸牛角上の小天地に跼蹐するは忠でない、孝でない、又以て大正日本民族の使命を全うする道でもない。

天の壁立つ極み國の退き立つ限り皇大朝廷の大稜威を仰がしめ、皇御國の大御光を蒙らしむることは誠に壯快の事ではないか。

三 長野縣の人口

國民の元氣が旺盛になるに人口が増加し、元氣が萎微して放縱安逸に流れるに人口が減少する。我國の人口が盛んに増加するは即ち國民元氣の旺盛なる證據であるから大に悦ばしい事である。宜しく之を導いて海外に向はしむべきである。植民の原動力は人口にある。今試みに本縣の人口を調べて見るに次の様である。

本縣の人口は大正三年に百五十萬となつた。最近三十三年間に五十萬を増し三分の一を加へた。即ち明治十三年に百萬の人口は同廿六年には百十七萬となり、同三十六年には百三十二萬となり、大正三年には百五十萬となつて一年間平均一萬四千人を増し、最近に於ては

一萬七八千人づゝを増して居る。其の増加率は千人につき十一人八分である。この率で進んで行くに、大正二十七年には二百萬人となり、明治十三年の二倍に達し、更に又今後四十二三年を経過すれば、二百五十萬人となつて、現在の人口に百萬を加へる。其の三百萬となるは大正六十一年で正に百年を過ぎると五百萬人となる。實に驚くべきことではないか。

過去三十三年の間は千人につき十一人八分を以て進み來り、五十萬人を増加したから、この割合より推測すれば、他に不測の事變なき限り、植民事業の行はれざる限りは、必ずこれ以上の勢を以て増殖する。かくては白馬山の御花畑に至るまでも村落を作らなければ、此の人口を收容することは出來ないことになつてしまふ。三十年四十年の歲月は忽ち來る。今に於て植民の大方針を立て、植民の主張を強くして學校教育、社會教育、家庭教育等に相待つて海外雄飛の大精神

を喚起し國運の發展に勤めねばならぬ。

四 長野縣の耕作面積

本縣の面積は八百三十九方里、百三十萬町歩である。山岳が多くて平野が乏しいので、現在の耕地は百十三方里十七萬五千町歩に過ぎない。全面積に比して僅に一割三分強にあたり、日本内地の一割七分に比して尙四分少く、世界に模範農園國と云はれる丁抹の六割五分五厘、佛蘭西の五割三分三厘、山林國と稱せられる獨逸の四割九分三厘、農業衰頹の傾きありと云はれる英國の二割五分、移民國の第一と呼ばれる以太利の六割二分七厘等に比して其の差甚しく、本縣の如何にも耕地の少なきを示し、然も人口に於ては一方里獨逸の一千七百餘人、佛蘭西の一千百餘人、丁抹の一千二百人に對して本縣が一千七百八十七人を收容するを見れば如何に一人當り耕作反別の狹少である。

又如何に平地に於ける人口の稠密なるか、分るであらう。其の上にも尙本縣農民の商工に對する割合は他國に比して遙かに多いのである。

さて、本縣に尙幾許の開墾の餘地あるかを見るに、淺間山麓を初め飯綱原、立科、八ヶ岳、白馬山の裾野等の傾斜地で開拓すべき原野が無限にある様に見えるが、是等は或は積雪深く鎖し、或は水利の便を缺き、或は瘠薄不毛の地で、恐らくは其の開墾は頗る困難であらう。試みに、過去明治十六年以後三十年間、本縣耕作面積の増減をしらべて見るに、水田は八千七百三十八町歩を増し、畑は一萬一千三百六十九町歩を増し、田畑合計に於ては二萬百七十七町歩、一年平均六百七十町歩を拓いたが、最近十年間は僅に一年二百四十六町歩を増したに過ぎない。水田に至つては最近十年間殆んど増減がない。

人口は最近最も急速に増加したから、勞力に不足を感ずることはな

いが、斯の如く開墾の遅々として振はないのは、蓋し本縣の山野は既に開墾の極限に近づいたのを示すもので、姨捨の段丘的水田、篠井線沿道急斜面のよく開拓せられたるが如きは、信州の南北到所に之を見るべく、甚しきは四十度から四十五度の傾斜を拓いたのさへある。されば最早今後の増加は益々困難なる傾斜地、瘠薄地、高地のみで勞が多くて利が少なく、たごへ傾斜地の開墾が水害洪水の慘害を來すを顧慮することがなく、林業牧畜業の範圍を侵蝕して極力開墾を獎勵しても其の事業は餘り進むまいと斷言することが出來よう。さて將來益々開墾事業に努力して、假りに年々二百五十町を増すにしても、大正三十年迄に七千五百町歩に過ぎなくて、總計十八萬二千六百町歩となるばかりである。而して人口は大正三十年に於て遙に二百萬を超過するは疑ふべからざることであるから、今後急速に一人當り耕作反別を減少し農民の困窮するのが知られる。

今後畑を田に、或は田を畑に、或は桑園を果樹園に、一毛作を二毛作に變ずる等、資本と勞力の増加によつて農産額を増加するであらうが、土地の開墾はだん／＼其の割合を減じ、大正三十年にして十八萬町内外に止まり十九萬町を越すことは難かるべく、大正五十年、七十年に至るも、二十萬町、二十一萬町歩に達するは蓋今日の人智では到底困難であらう。

五 長野縣一人當り耕作反別の減少

本縣の人口は停滯なく増殖するに反して、耕作反別の近年の如く遅々として増加せざるに於ては、一人當り耕作反別の減少するは明なる事實で、實に是れ農民生活の困難を表はす指針とも謂へる。試みに總人口を以て總耕地を除し、一人平均の耕地を算出すると、明治十年代に一反四畝八歩のものが全廿年代に一反三畝七歩となり、全三十

年代には愈々減少して一反三畝一步となり、遂に現在に於ては一反一畝八歩となった。其遂に一反歩以下に減少するは今後十餘年を俟たないであらう。

農業が唯一の根據生産の原動力とした土地の一人割當が斯の如く減少すれば、農家の經濟を破り農村の破滅を來すは理の見易い所で、百の農村救濟論、千の農家經濟策も耕地減少の勢に向つては施すべき手段も無いのである。

日本内地現在の田舎在住者は八割二分五厘である。本縣に於ては全く農業に關係せざるものが二割を占め、其の八割強は農業關係者と見なすことが出来る。即ち百五十萬の内百二十萬人は農業従事者で、之を以て現在耕地十七萬六千町歩を除ると、一人當り一反四畝五歩となり、一戸六人分は八反七畝に當る。一戸八九反歩一人一反四五畝で一家一人の生活を立てねばならぬ。然かも其の土地配當が年一年

と減少するに於ては、農民生活の憐むべく農村の將來は大に考究すべき問題ではないか。

六 農村疲弊の現状

本縣農村疲弊、農家困難の状況は眞に寒心に堪へないものがある。青年會、農會、役場等に於て調査したる本縣農家の收支計算表を見ると一反歩純益三四圓から三十五六圓に止まり、労働賃銀を加へても、貳參拾圓から五六十圓を出まい、併し之れとても時に損失を來すところあるは勿論である。而して其の耕作面積が、山部に於ては一人二反歩に上るが、平坦部では一反歩を下ることがある。山部は面積の廣いに比べて収益少なく、平坦部は一反歩の収益は多いが面積が狭いので、平均農家一人の收得は先づ五六十圓であらう。一年五六十圓、毎月四五圓で一人の生計を維持し、之を以て衣食住に充て、教育費を支辨し、

交際費を償はねばならぬ。先覺者が切りに勤儉を説得しても、働くべきの土地なく、勞作すべき仕事なく、貯蓄すべき餘裕なく、憐むべき住宅に住み、粗末なる食物を喰ふ現状であるから、此の上にも尙且儉約を獎勵したならば、勢國民は其食物に向つて節約を川へ、やがては體力に損耗を來すを免れないことになるであらう。

之を納税に就て見るも、各町村戸數割表は其末等に近づく數の愈々多きを見る。然かも十八九錢の滞納の爲めに財産差押公賣の處分を受くるものが年々に増加するのを見れば、農民の困窮は想像に餘り、學齡兒童中不就學者が多く從來本縣が就學歩合の向上に就て極力獎勵を加へても常に全國中下位を占める有様であるのも無理はないことである。

されば、一旦不作に遭遇したり、或は一家に病人があつて治療費を要するか、或は死者があつて葬式を出すか婚禮の式を擧るか等不時の出來事に遭遇すれば、小作人は固より自作者地主と雖も、止を得ず、償還の見込なき負債を起すか、或は父祖傳來の田畑を賣却するか、然らざれば一家を擧げて饑渴に泣くの外なきことは免れ難い勢である。これを以て負債は年毎に増加し、一戸平均三百圓と數へられ、山の如き借財をなして殆んど其救濟の道なきに至る村落もあり、自作者は自ら減少して、小作に甘んずる者が年々増加するは止むを得ないことである。

七 農村の救濟は農家耕作反別の増加にあり

本縣農家生活の困難になつたのは、全く耕作反別の狹少なるのが有力の原因である。過去三十餘年に於て人口は三分の一を増加したのに、耕作面積は僅に八分の一を増したに過ぎない。土地を唯一の根據とする農家が土地を狹められたれば、たこへ農法改良によりて幾分

の増収があるに至つても、之を多人數に分配するから、各人の配當の不足するのは自明の理で、耕地の擴張は農村救済の根本問題である。ここも是亦明である。然かも開拓の見込ある土地は少なく、十年來開墾の歩合甚しく減つて、年々二百五十町歩に過ぎないのに、人口が一萬七八千人を増加するから、農村過剩人口の排除は何人も力を注ぎて考究すべき重大問題で、之を商工業に轉ぜしむるか、或は海外植民を講ずるかの外はあるまい。

今諸外國の例に徴して、我が縣に於て極端なる零碎農業制の行はれ居るかを見るに、本縣に一町歩以上の土地を耕作する農家は二割九分であるに比し、獨逸は五割二分四厘を占め、佛蘭西は六割八厘を占め、英國は二町二畝以上のものが七割七分三厘を占むるを見る。如何に本縣の農民が丁抹の田園的農村を眞似ようとしても、其の耕作面積を數倍するでなくては、夢にも及ばぬ所であらう。

今之を世界各地の米作者の一農夫耕地面積に見るも、我が國勞働者が尙多くの耕地を經營し得べきかを知ることが出來よう。即ち米國の如きは特別として支那、印度、シヤム、以太利等の諸邦に見るも、本縣農夫の耕作面積の五倍乃至十倍の土地を耕して居る。されば本縣農夫は小面積に於て極めて集約的に、又極めて不經濟的に働らいて、常に收益少なく貧困に苦しむつゝあるのである。併しながら本縣の農業者と雖も、一人一町歩の經營をなし、一戸三人の勞働者として、一戸三町歩の耕耘をなすことは出來よう。

斯の如くなれば、耕地整理は謂はずして行はれ、土地の分合は自ら行はれ、田畑の區劃は自ら擴大せられ、牛馬力は自ら使用せられ、農具は自然に改まり、機械力は自ら加はり、農法の改良も期せずして行はれるであらう。

故に本縣農場最下底を一戸三町とし、五町を以て尤も安全強固なる

中農として其數を多くすれば、こゝに初めて農村を救済し、農家の幸福を増進し、一縣一村の富強を圖ることが出来るであらう。然らば即ち一戸三町乃至五町とすれば、現在一戸耕地の三倍乃至五倍で、現在農業人口の三分の一乃至五分の一で足りるから、百二十萬の農民中數十百萬人を他に移し、尙且年々増加する一萬數千人の人口を盡く他に移してもよい。

されば、此の農村過剩人口の一部は都會に移して、商工業の發達を計るべきであるが、其の大部分は之を海外に移して同じく農業に従事せしめ、從來熟練して來た職業を變へないで、其儘之を經營せしむる時は失敗少なくて、國家全局より見れば尤も適切なる政策と謂ふべく、併せて内地の農村を救済することが出来る。

八 植民思想の普及

本縣人口の増殖は斯の如く盛んなるに反して、開墾拓地の斯の如く遅々たるので、農家一戸一人の耕作反別は年々共に減じ、縣下全農産額の多少増進するに關はず、農民の所得は年々に減少し、農村は疲弊してくる。農村救済の爲に幾多の施設があつても、何れも枝葉に止まつて、其根幹たる土地の増殖を圖るでなければ、決して其の實を擧ぐることは出来まい。將來本縣の工業を盛んにし之に過剩人口を吸収せしむべきも、其の大部分は海外事業に向はしめねばならぬ。植民思想の普及はやがて本縣の大部分を占むる農村救済の根本問題で、本縣の現在及び將來の社會政策として大に之が鼓吹を要することである。

植民と云へば直に二三男を聯想し、長男は全く之に關せぬ様な感があるが、必ずしもさうでない。長男と雖も獨立自營の精神を以て植民者の態度を持ち、事情の許す限りは十數年間海外に渡つて後歸郷す

るも亦宜しからう。況んや新に家を創めたる者の長男の如きは必ずしも其の故郷に固着せねばならぬ程のことも無からう。或は又古くから土着の農家に生れた長男でも、天性國家的人物たるに適し、或は世界的舞臺の人たるに適するに於ては、必ずしも其の家に引留むるにも及ぶまい。二三男中留つて農村を固めようとする者に家を譲るが如きは、今後自ら起るべき現象であらう。

唯大體に於て長男と二三男とを分ち、長男は家郷に留まつて祖先墳墓の地を守り、一家一村の基礎を強固にし、日本民族の純粹を保持し、日本魂を長へに持續すべき根幹本家となり、二三男は或は朝鮮に、或は滿蒙に、或は南洋に、涉りて、新日本の家庭を創造し、或は支那に、或は太平洋の彼岸に移りて、日本民族膨脹の先驅を爲すべきものとし、各適切な教育訓陶を施すは、又時勢の要求といふべきである。而して學校教育も社會教育も努めてこの主張を強めたい。殊に青年會は主力

を獨立自營の研究に注ぎ、二三男の獨立に向つて同情と指導と切磋と琢磨とをなし、婦人會も亦在外同胞に向つて通信慰藉連絡を講じ、農會も勞力問題に關聯して植民に關する調査研究をなし、町村是設定に就ては人口の増殖と社會の風規勞力食糧分配との關係を考慮し、自治研究會の如きも社會問題として大に力をこゝに致し、自彊會の如きも各自の人格を尊重し、二三男の獨立自營に向つて最善の手段を講ずべく、又之が獨立に就ては徒に都會地に集注せんよりも、海外農業植民こそ尤も堅實で、日本建國の精神國是も之に合する所以なることを知らしめ植民思想の普及を講ずるがよい。

又植民問題は獨農村のみの問題ではなく、都會商工業者の問題たるは固よりである。就中商工業的植民に至つては、其の成功は比較的速である。殊に大工、左官、理髮師、洗濯業者、醫師等一藝一能に長じたる者は到る所に歡迎される。而も本邦自然の地勢は四面環海商工業の發

達を促すべきものがあれば、徒に内地にかゝまつて居らずに、大に其の手腕を海外に振はしむべきである。併もこの植民的氣分を全縣下に漲らしめ、國民は海外に出づること恰も隣村に出づるが如く、嫌ふことなく恐れることなく、老若男女の別なく競つて之に向ふ様にして、以て大陸的、海洋的、大國民的、大發展的元氣を天下に漲らしむべきである。

九 海軍志願兵と海外發展

世界の歴史を繙いて見ると、海外に眼を注いだ國は榮え、植民を怠つた國は衰へて居る。西洋で一番早く植民の事に着手したものは「フェニキヤ」人で、國富勢望頓に四周に拔んで、通商貿易保護の必要からして海軍を創造したのも亦「フェニキヤ」人である。次で「ベルシヤ」「ギリシヤ」の勃興となつたのも、一として海上勢力の推移でないことはな

い。而して「ギリシヤ」は港灣に富み、海上交通の便多く、航海商業に従事し、其の國民は愛國心が旺んで、軍人氣質に富み、能く他人の長所を採つて自ら改善し、盛大なる文明を來し、降つて「ローマ」の興るに及んで通商、航海、植民の權之に移り「ギリシヤ」民族の衰退となつた。

我足利時代に至つて「西班牙」「葡萄牙」兩國隆盛を來し、海外發展の思想が愈々擴大し、植民貿易の興隆と共に國運も亦益々盛大となり、國權の伸張となつた。次で蘭人が海事に注目し、着々海上の權力を占め、海外發展に努力し、西國、葡國の海上勢力を壓倒するに至り、和蘭の國勢は隆々として榮へ、國勢は大に發揚した。當時蘭國の海軍は精銳偉大と稱せられた。然るに一旦富裕となつた蘭人は眞面目の努力を閉却して貸金事業の如きに耽り、海軍を縮少して之が振興を計らず、國內黨争盛んにして、製造貿易航海の業は外國の爲めに壓迫せられ、國民の企業心萎微して事業活氣を消失し、向上敢爲の風を失ひ、遂に英國の

爲めに全く海上の覇權を奪はれ、今日の衰運を招いた。即ち海外發展の國是を忘れ、誤れる節儉の爲めに國防を閑却し、自ら國を亡ぼせるものである。之に反して英國の今日あるは海上發展の賜で、同國の運命は全然海上にあり、之れが爲めにはあらゆる努力を海事に盡し、尙ほ且つ足らざるを憂へて居る。従つて、世界の智識に明るく、世界の至る所に植民し、國權之に伴ひ強大なる海軍を以て之を後援し、永く其の盛大を維持して居る。

抑も、國利の存する所國權必ず之に伴ひ、其の擁護に盡すは列強現時の趨勢である。而して我國利の増大は之を海外に求むべきもので、之が擁護には堅實なる海軍が必要である。

茲に於てか、縣下の氣慨ある青年は海軍志願兵となるがよい。海軍に志願するのは、徒に恩給を得老後の生活を安樂ならしめようとするものではない。海軍々人は常に海外發展者の保護者たるのみでなく、

滿期後自ら雄飛せんことを充分なる準備計畫をなすことを得、又郷里の出稼者に對しては確實なる指導者たるを失はない、即ち内國と海外との唯一の連絡者で、海軍志願盛んなれば、自ら海外發展の氣運を増進し、海外發展盛んなれば、海軍志願者の多數を要望するは理の當然である。

然るに、目下各府縣に於ける海軍現役豫後備役下士卒等の現任人口の一萬人に對する歩合を見るに、本縣は七人、山口縣は三十四人、和歌山縣は三十二人、宮城縣は二十九人、熊本、鹿兒島の兩縣を初め、四國、九州地方は何れも本縣の二倍三倍に上り、従つて海外發展者も少くない。本縣の青年たるもの奮然蹶起進んで海軍に志願すべきではないか。

一〇 植民者の心得

單獨植民を爲す者の年齢は徵兵を濟した時が尤もよい。次は十七八歳から壯丁検査頃迄である。十六歳以前では心身共に薄弱であるから、獨立して運命を切り開くには心細い感がある。

文字はローマ綴字を覺える事が大切であり、又英語か、イスパニヤ語か、マライ語の極めて初歩を學んで置くのも大層好都合のことである。

公衆の面前に於て裸體となることや、或は路上で放尿することなどは、事小なる様ではあるが、これやがて日本人排斥の一原因となる。又島國的根性から外國に出ても同胞が互に攻撃批難し、少しく成功する者があるに嫉妬心を起して突き落してしまふ。誰か利益ある事業を創めるとき、吾もくゞ集つて来て、同じ事業を直ぐ其近隣に創めて共倒れをする。そして、産業組合を設立するとか、合同事業を經營するとかいふことは誠に少い。早く歸國しようとする想郷戀々の心が

強いから、無理に働き且粗食する爲め身體を害する者が多く、在往中に於ても公共の事に盡し、永遠の業を企圖する事少く、徒に一時的投機的の事業を爲す者が多い。かくては、日本民族の大發展は覺束ないことである。豪い元氣で移住した者も、やがて賭博をする、酒色に耽ける、是が渡航後數年ならずして傳染される病だ云ふことである。

今後渡航を企圖する者は宜しく堅實なる家庭を作り、永く彼の地に在住する覺悟と、文野何れの國を問はず、自他共に利し、且協同和樂する心懸けが必要である。殊に婦女子の渡航は急務中の急務である。又大工、左官、理髮師、寫眞師等苟も一藝一能に通ずる者は容易に職に就くことが出来る。

幼少の時から植民貯金をすること、貯金組合を設置して渡航費を融通し、其の組合員が漸次同一の地方に渡航して、協同的事業を經營することは頗る大切のことである。

一一 植民と精神上の利益

本縣の人士は由來山間の小天地に馴れて、やゝもすれば偏狹固陋自ら高しとし、寛宏濶大の大國民的氣風を缺くの譏があつた。然るに、一旦萬里の波濤を蹴つて大洋の彼岸に日本島の没するに及んでは海洋の念は深く腦裏に刻まれ、白人に接し、黒人に交り、支那人に伍し、初めて自己は大日本國民たるを覺り、愛國の思想は湧然として生じ、茲に初めて人種結合の必要を知り、慈善義俠の念を發揮し、時間の規律を知り、秩序勤勉の貴きを覺り、先進國に趣きては文化の普及を知り、後進國に入りては自尊自重の念を起すのである。かくて海外にあるものご歸國せるものごを問はず、或は文書により、或は説話を以て大に國家的の觀念を鼓吹し、世界を家とするの雄志を起さしめ、従つて一般社會の道德は高まり、文明は之に由つて發達する。

植民は實に是れ一種の海外留學生と稱すべきである。

一二 植民と社會上の利益

二三男の子弟が農村で獨立するは頗る困難で、水田三四反、畑二三反を購入するに千五六百圓、家屋の建築、家財農具の購入に五六百圓かかる。五反百姓となるに二千圓かかる。青年が二千圓の資金を蓄積するは内地の働きでは容易の業ではない。それでは中には自暴自棄、獨立自營の精神なく、何等の考慮計畫もなく、二十五歳となり三十歳となり、兄の家に寄寓し、嫂姪に顧みられず、親の亡くなりし後は茫然自失身に一錢の貯蓄もなく、今となりては養子にも行きがたく、財産の分與を受けようと思つても、餘りに本家が貧窮なので殆んど前途に希望なく、光明なく、或は無意味に都會地に走りて俸給取りとなり日備となり、其の日暮し其の月暮しとなり、遂に失脚し羽織ゴロとなり

働くに口なき境遇に陥り、終歳孜々營々額に汗して僅に其の日の露命を繋ぎ、或は煩悶、或は失意、或は不平、或は墮落自ら進んで其の生活状態を改造するの勇氣なく、社會の風紀を維持するの活力を失ふものがある。故に二三男たるものは此の際大に勇奮して、天賦自然の能力を海外の新天地に發揮し、十分の手腕を振ふがよい。

一三 植民と經濟上の利益

長野縣の青年で日本民族發展に志して海外に成功した有爲の人物も澤山ある。一家妻子を携へて永住の決心を示せる幾多の人士もある。又家の借金を返済せんが爲めに、海外に奮闘して目的を達し、父母を喜ばせた孝子もある。汲々として蓄財し、盡く家郷に送り一家の資に供する者もある。固より渡航數年の後、獨立自營の境遇に入らうとするに及んでは、送金せざるに至るべきも、初め數年間には送金者が多

いから、假に一人百圓とし、一戸一人づゝ渡航するにせせば、二十五萬人二千五百萬圓となり、五億の外債を有するに等しい。又五百戸の農村に五萬圓を送り來らば、忽ちにして農村の救済をなし得るであらう。九州中國の諸縣にはこの例が少くないが、今伊太利の例を左にあげて見よう。

伊太利は國內平野が多くて六割二分七厘の耕地を有し、我縣耕地の一割三分の比ではないが、人口は一方里千八百八十餘名を有し、我縣の人口密度に畧ほ等しく、農民困窮の状況は我縣によく似て居る。天氣の晴朗なる、火山の多き、米を作り蠶を飼ひ、愛郷心の強き、何れも本縣に似た所が多い。彼等は其の生活を改善せんが爲めに、戀しい故郷を去り、涙を吞んで國外に移住するもの多く、今や、世界一の移民國となつた。明治初年代には殆んど數ふるに足りなかつたが、同十年から漸く其の數を増し、年々十萬人を上下し、同二十年に至つては二十萬

人に上り、同三十年に至つては三十萬人に上り、同三十四年には五十萬人を超え、同三十八年には七十萬人に數へ、爾來今日に至るまで、年々七十萬内外を上下した。併しながら、還國する者も亦多いので、大正元年の統計によると、伊太利人の世界各國に移住する者は實に五百五十五萬人である。北米に百七十八萬人、ブラジルに百五十萬人、アルゼンチンに百萬人、其の他は各地に散在して居る。同年に於ける伊國民總數三千四百五十萬に對し、約六分の一即ち一割六歩強の歩合である。

移民の輸入する金額は、移民の旅費及び出發の際持ち去る金額を差引き、其の實収入は我一億九千三百五十萬圓乃至二億三千二百二十萬圓、一人平均三百四十九圓乃至四百十八圓である。移民は、粉骨碎身の結果になつた貯金については、多大の注意を以て之を使用し、農民は好んで土地を購入するの風がある。若し貯金額が土地購入に足ら

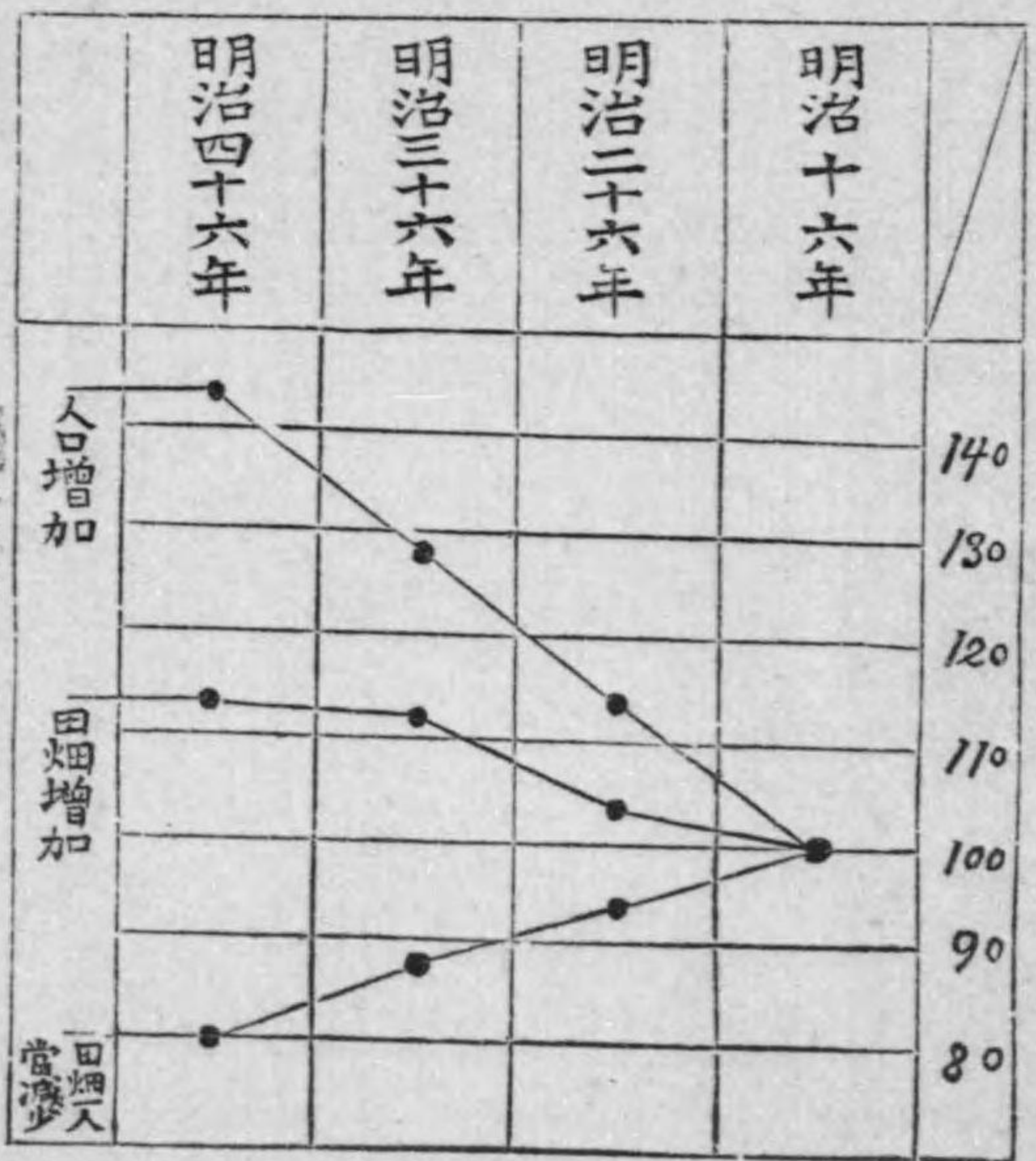
ない時は、郵便貯金又は銀行に預け入れ、小地主となるの願望を遂ぐる爲め再び出稼をする。

歸國移民は、其の購入した土地に、先づ清潔な住宅を築くを例とし。一部の歸國移民は家蓄又は小規模の農業に投資する。販國工匠等は自宅を建築し又は購入した上、尙餘裕ある時は商業を営み或は他の歸國者と共同して、小規模の工業を始むるの傾向がある。

要するに、伊國移民流出の原因は經濟上に存し、經濟上の缺陷は又移民によりて自然的に改善せられて居る。之は自然の妙法で、即ち移民は其の郷里の物資に乏しく生業不振の爲め、餘儀なく労働を外國に需むる者で、其の移住により、郷里に於ては労働の供給を減じて賃銀の向上を爲さしめ、又移民は出稼先に於て辛苦労働によりて得たる貯金を本國に送金し、若くは持ち歸るにより、地方に資金の潤澤を來し延いては國內金融上、其の他一般經濟上に良影響を及ぼし、其の改

善を促すに至るもので、伊國が外債の買戻し、國債の低利借替へに成
功した其の一半の功は移民の送金及び貯金に負ふものと謂ふべき
である。如何に零碎の貯金が大なる結果を生ずるに至るかを知るこ
とが出来らるであらう。

一四 最近三十年間 長野縣耕地増減率表



▲明治四十六年トハ即チ大正二年

第二章 各論

一朝 鮮

朝鮮は面積一萬四千餘方里、人口一千三百萬、之を内地に比すれば、人口が稀薄である。加ふるに、地味肥沃で、未墾の可耕地が多く、既墾地と云へども改良增收の餘地がある。明治四十一年日韓兩政府保護の下に、東洋拓植株式會社が設立せられた。同會社は農民の永住土着、農業の改良、及び土地の開拓、地方經濟の發達等を主眼目的として、爾來内地より農業移民を招き大正二年までに既に一千三百餘戸五千五百餘人を移住土着せしむるに至つた。

朝鮮の氣候は一般に大陸的で寒暑の差は甚しいが、長野縣人には凌ぎ難き程のものではない、而して南部地方は年内を通じて氣候最も溫暖で、恰かも内地の關東地方と同じく、雨量も亦豊かで、農業にも亦最も適する。中部以北と雖も、夏季は温度が高
いから、地味の肥沃と相俟つて是又農業が有望である。
元來朝鮮は廣い面積の土地を極めて粗放的に耕作して居るから、之を集約的に耕作せしめて、其の餘裕を生じたる土地に移民を招き或は諸方に散在する未墾地を開墾するのであるから、移民の往つて住まふ土地は各道に互つて所々に點在するので、鮮人の間に交つて彼等に農事の模範を示し従來の粗笨的耕作法を改良せしめて收穫増加の事實を知らしめ農業の奨励と共に地方の發達を期せねばならぬ。拓植會社の取扱ひに係る移民には左の二種がある。即ち一を一種移民と云ひて田一町四五反、畑四五反計二町位の既墾地を割當て、移住契約當時の割當地の價格に年六分の利子を附し、二十五年以内に元利金を年賦済し崩しとして土地所有權の譲り渡しを受くるもの、他を二種移民といひ十町歩の地主となるのである。
地味は一般に良好で、殊に南部地方には二毛作をなし得る所が少くない。
收穫歩合は水田一反歩より普通は玄米一石三斗、上田は二石以上に上るものもあるが、下田は五六斗に及ばないものもある。上畑は大麥約二石、中畑は一石二斗、下畑は六七斗である。大豆は上畑は約一石中、畑は六斗、下畑は三斗である。されど土地の手入と肥料次第で、水田一反歩より玄米二石五六斗を産した例も乏しくない。故に

改良を施す時は將來五割の増収を見ることは難くない。

地價は地方により、地味水利の良否によりて異なるが、會社の取扱ふ土地は田一反歩四五十圓乃至八九十圓位で、畑は其の半額である。但市街地に接近するか又は特殊の事情ある時は、百圓以上に上る所もある。而して是等の價格は總て會社より總督府に申請して認可を得て定めるものである。

移住地に入りて第一に必要なものは住宅である。されば移住前に家族の一人先發して建築の準備をなすがよい。會社は之に對しても懇切に其の斡旋をする。建築費は普通亞鉛^{インディヤ}五、六坪の日本建で、一戸八九十圓より百四五十圓かゝる。又朝鮮人の家屋を買ふ時は、三四十坪の敷地付で大抵七八十圓より百圓内外である。移住者は翌年收穫期までの生活費として、一人當り四十圓位と、住家納屋の建築費農具種苗耕牛肥料等の購入費及其の他の雜費として、少くとも三四百圓以上を持金しなくてはならぬ。但五戸以上の團體移住は一戸につき二百圓以内の補助金貸付の利あれば、二三百圓にて足るであらう。

拓植會社の手を経て朝鮮に移住せんと欲するものは大體左の條件を備へたる者に限る。

一、移住を申込み家族の戸主は兵役に關係がない満二十歳以上の男子たること。但家族には現役者があつても差支はない。

一、農業移民に限る。商工業兼營又は他人に使用さるゝことを目的とするものは其の資格がない。

一、永住土着の意志堅固で、朝鮮農民の模範となり、着實に農業を勉むる者。

一、必ず家族を引き連れること。

一、素行の正しい者。

拓植會社は豫め移住地方を撰定して、毎年二月中に官報を以て移民募集の公告をなす。移民希望者は一種、二種何れかの希望を撰びて、申込書に戸籍謄本を添へて市町村長に差出す。其の申込期限は毎年九月末日迄である。團體を作つて移住する場合には、移住申込書の外に團體規約を作り、總代人を撰び、團體一同連署して規約及び總代人の承認請求書を添へて提出するのである。移住承認の通知を受けたものは移住契約書を市町村長の手を経て提出すれば、該會社は直に移住期日を本人に通告す。

朝鮮は内地人が渡つて早く同化せねばならぬ土地であり、政府も保護獎勵に努め

て居るから、奮つて移住すべき所である。

二 滿州蒙古

土地が廣くて人が少なく、粗放農業で十町二十町に一戸二戸の農家が在るばかりである。殊に蒙古は牧畜を主とし耕耘に適する未開地が甚だ多い。勞働賃銀は女は十二三錢より男は二十五六錢に過ぎないから、勞働者として日本人の這入るべき見込はないが、物價が廉く、地價亦我十分の一以下なれば、今回土地の商租權を得たるを幸ひ、多少の資金を携へて移住し、集約農法を行へば、將來莫大の人口を收集することが出来る。冬期は寒氣が烈しいが、夏期は暑くて農作に適すから、我堅實なる農業植民を行ふことが出来る。

其の他鑛業の富は無限に埋藏せられて、日本人の經營を待つて居り、工業の如き農産製造の如きも皆幼稚であるから、是亦日本人の開拓すべき有望の仕事である。我國人の滿州にあるもの凡五萬千餘人、内農業者は一千百餘人である。關東州には四萬八千九百餘人の日本人が居る。金州附近では水田を耕作する爲め日本人を招いて居る。

三 支那本部

支那本部は約二十六萬方里、人口三億餘を有する大農業國で、昨今漸く覺醒の緒につき、各種の事業が起らんとして居る。日本人の移住者約二萬一千餘人あり、皆商工業者で、農業従事者は一人もない。人口稠密で勞働賃銀が廉いから、普通勞働者の渡航すべき所ではないが、苟も一藝一能を有する技師、監督者、支配人等の能力を發揮すべき所で、商工業上無限に邦人の發展すべき土地であるから、常にその調査を怠つてはならぬ。

四 樺 太

位置が北方に偏するけれども、夏期は日永く温度又高く、植物は一齊に發育し、生長が速であるから、農業が出来る。滿蒙樺太等北部に到るに従ひ、春秋なく冬について直に夏が来る。政府は明治三十九年以來、植民を獎勵し、七町五反歩乃至五町歩の未耕地を無料で拂下げ、家屋建築農具の購入に補助を與へ、汽車汽船賃の割引をして居る。冬期は雪積上材木運搬の便利がある。四面の海は魚族の繁殖が盛で、見のすここが出来ぬ一大富源である。近時内地人の來つて漁業等をなすものが次第に多くなつたが、陸上の富源は未だ多く開拓せられない。

五 臺 灣

臺灣は本縣の三倍弱の面積と二倍強の人口とを有し、大山脉南北に

連り、全土を東西に分つて居る。西部臺灣は交通が日に開け、戸口が月に繁殖する。米、砂糖、甘藷等の栽培が非常に發達しては居るが、既に支那人が密集して定住するから、邦人は只商工業技師官吏等として入るに過ぎない。然るに東部臺灣は交通が不便で、支那人の定住者なく、僅に蕃人の幼稚なる掠奪農業を營む者ばかりであるから、我農業移民は専ら之に入るべきである。東海岸に於て、中央山脉と海岸小山脉の中間に狹まれた、幅一、二里長さ四十五里に亘る狹長の未開地があるが、蘆葦が丈餘にのびて、恰も河中島平野を小縣、佐久、越後邊にまで延長したような所である。臺灣總督府は之に純日本村落を建設しようとして、明治四十二年から着手して、四十四年迄に三百三十七戸一千百七十八人を移し、將來一萬三千三百三十三戸六萬六千六百六十五人を移植し、十五ヶ村を建設する豫定である。目下移住者には米、甘蔗、蔬菜、綿を栽培せしめて居る。

移民には耕地三町歩乃至一町五反宅地一反五畝を拂下げ、家屋、農具、耕牛、肥料、風呂桶、種苗、醫藥等の補助、旅費の割引、十年賦拂込資金貸與の便を與へて、年々内地の家族農民の募集をして居る。

之に輕便鐵道、道路、灌溉、排水溝を通じ、病院、學校、警察署、社寺、農事指導所等を建てた。今其の目的とする所を次に擧げて見れば、

- 一、純然たる日本民族の農村を建設し、
- 二、日本民族の國民性を扶植し、之を發展せしめ、
- 三、以て本島支那土人の民族的自覺に備へ、資本的植民政策の缺點を補ひ、

四、熱帶地農業植民に關する各種の試験を行ふにある。熱帶を有するものは世界の富を支配するものである。我大日本帝國の使命は、臺灣を踏臺地とし、準備地とし、試験地として、南洋一帯に發展するにあることを忘れてはならぬ。

六 フイリツピン群島

臺灣と一葦帶水の地で、土人は日本人種に類似し、大に本邦人を歡迎する。現在五千三百人の渡航者がある。内大工として一千五十人、農業者六百二十人、水産業者三百八十人、雜貨商二百六十人あり。中には土人を妻とする者もある。天産豊富、將來無限に日本人の移住すべき南洋第一の土地なるも、米國政府は本國と同様に日本人を歡迎しないで、只時々五六十人づゝ甘蔗、煙草、麻、鑛業等の會社人夫として、募集するばかりである。

船賃は神戸よりマニラ迄二十五圓で、十三日を要し、最南端ミンダオ島迄三十一圓で、十六日かゝる。最南端ダバオには太田作太郎氏經營に係る麻耕地があつて、こゝに日本人の數百人が居る。又同地には本邦人の商店もあつて宛然日本村落の有様である。この地は南洋群

島中労働賃銀の尤も高い所で、最下等が一日一圓二十五錢だから、普通労働者として渡航するによい所である。又外國人に土地所有を許し、私人の土地賣買を禁じないばかりでなく、沃土相連り、斧鉞入らざるの地尙多く、其の價格亦頗る低廉で、政府は拓地開墾の獎勵に餘念がない。されば日本人は農業労働者として之に入り、風土に馴れ、漸次土地を開拓して、米麻等の自作經營者となるがよい。麻はこの地の特産物で、世界にも名高いから、今少しく其の模様を左に述べよう。

マニラ麻はアバカといふ芭蕉に似た植物の葉柄から製するもので、我國の苧麻の纖維に似て居る。マニラ港から世界の各地に輸出するからマニラ麻と呼ばれて居る。日本にも四百萬圓も來る。近來世界に於けるマニラ麻の需要が激増したので、原産地たる本島は百方其の増産に努むるが、需要は益々多くて、猶供給不足の状態である。而してマニラ麻栽培は之を經營するに比較的資本が少く、利益が割合に多

い事業である。

之を經營しようとするには、本島中の大島ミンダオ島が最も適當である。本島の現行法は本島法律に依つて、土人一名以上を加へたる外國人の法人及社團は總て公有地を賃借し、又は買ひ受くるの権利があり、且土地の賃借購入頗る容易に、且その借地税が至つてやすく、一ケ年一町歩僅に五十錢の規定である。されば既に邦人の經營に依りて起れる麻會社八個に達し、尙増加の勢がある。若し資本が乏しいものならば、最初是等の麻會社に於て労働に従事し、其の收入の餘りを蓄へて、二十ヶ月の食費を支へ得るに至らば、會社の小作人となりて、獨立經營するを得策とする。

元來麻會社は多數の雇人を入れて自營することはない。麻は年内間斷なく收穫するものだから、時々労働者の不足に遇ひて、思はぬ損害を招くことがある。故に會社は出來る限り廣い地所を手に入れ、之を

小作制度によりて貸渡す方法を取つてゐる。小作貸渡は一人につき一町歩半又は二町歩位で、一人の収入一ケ年六百圓は容易である。少しく勤勉なるものは八百圓以上を得るさいふことである。小資本家又は資本の缺乏者でフィリツピンに渡り、漸次に基礎ある發展をなさんごせば、此のマニラ麻の栽培に若くものはない。

七 セレベス

フィリツピン群島に相對し赤道直下に位して居る狹長なる四個の半島相連接し、海岸線長く、涼風常に吹いて氣候を調節し、瓜哇及馬來半島よりは遙に涼しく、蘭領群島中氣候尤も適良なる土地である。本島中のマカツサル港の如きはやがて第二のシンガポールとなるであらう。

産物は椰子を第一とし、ゴム、籐、コーヒー、黒檀、紫檀、鐵木、眞珠貝、高瀬貝

鼈甲、獸皮、鹿角、米等である。日本人は八九十名在住して、賣藥業、行商族宿業等を營んで居る。北端ミナハサ郡の土人中には日本人の子孫なりと誇稱する一族があつて、極樂村を作つて居る。

面積七萬四千方哩、人口は二百萬に足らない、神戸よりシンガポール瓜哇等を経て三十四五日、七十圓内外で行くことが出来るから、盛んに渡航して未墾地を開墾し、米作、椰子栽培等に從事するがよい。

椰子は熱帯に産する植物で、其實の用途は甚だ廣いが、主目的はコブラを得るにある。コブラとは椰子の實の中にある脂肉を乾燥したもので、シヤボン、バタ等の製造に用ひられ、世界に於ける需要が頗る多いものである。

最もよい椰子栽培はマニラ麻栽培に比すれば、遙に利益多き事業なれども、相當の資本がいる。何となれば、椰子は苗を植ゑ付けてから實のるまでに六七年を要し、其の間の生活費と園内の手入費、其の他の

雑費を要するからである。今開墾地を假りに八町歩とする時は、其の資本金は前記を合せて約四千圓を要する。然れども發芽後凡六七年を経れば愈々果實が取れる。それから以後は年々收穫が出来て、四ヶ年を経れば資金全部の取返しがつき、それから後は毎年二千圓餘の純益を得ることとなる。而して椰子は結實を始めてから、五十ヶ年位は間斷なしに收實する事が出来るから、其の利益は實に莫大なるものである。

八 ボルネオ

セレベスの西に隣し、氣候は瓜哇より涼しく、風土病も少ない。面積は日本全領土よりも廣く、北西三分の一は英領で、其の他は蘭領である。英領地には山田長政に似たる英人ブルツク氏の占領して本國に獻じ自ら王となつた所がある。英領地は殊に土地の開拓を獎勵し、家屋

を貸與し、土地を廉價にて拂下げ、幾多の便宜を與へてシンガポール地方より盛んに支那人、土人及び日本人を移入し、開發を圖つて居る。本邦人はこの機を逸せず、盛んに移住を計るがよい。産業はゴム、椰子、米、胡椒、石油、金剛石、石炭、金、林産物、漁業等で蘭領は鑛業が甚だ有望である。

我國人の現住者は約三百名である。

神戸よりシンガポールを経て、英領に赴くには二十五六日の日數と途中の滞港費を合して六七十圓を要し、瓜哇を経て蘭領に入るには三十七八日、七八十圓を要する。

九 馬來半島

日々の最高温度平均八十五六度、最低七十四度で、九十度以上に昇り七十度以下に降ることは稀である。驟雨が時々あつて温度を調節す

る、軟風は常に吹くが、暴風は絶無で、風土病少く、瓜哇印度地方より避暑療養に來る者が多い。

ゴム栽培業盛んに興り、已に四十萬町歩に達せんとして居る。日本人の着手せる者は明治三十九年以來七十餘名、拂下地四萬町歩、既植地一萬五千町歩なれば、數年の後ゴム液採取の時機に達すれば、純益が驚くべき額に達するであらう。南部ジョホール州の如きは宛然日本植民地の觀がある。

ゴム液の採取には特殊の技術を要し、手技に巧なる日本人の作業に適す、凡四反歩に一人を要するから、將來百萬人の人夫を要し、日本人の栽培地ばかりでも七八萬人を要することになる。作業は繁茂せる樹蔭に於ける早朝四五時間の仕事で、一家夫婦子供の共働作業による。勞賃は六七十錢で、生活費は一ヶ月十圓内外かゝる。日本人は須らく此處をも踏臺として、南洋の生活事業に馴れ、多少の貯金を作つて

後、有望なる他の諸島に移り、米作、或は椰子園の經營等獨立の生活に入るべきである。

ゴムは世の文明の進歩發達と共に益々必要欲くべからざるもので、世界に於ける明治四十四年の總産額は七萬噸餘であつたが、大正三年には十萬噸となり、其の需要亦年と共に止まる所を知らぬ有様である。而して其の産地は熱帶地方で主としてブラジル及アフリカであつたが、近年南洋馬來半島に於て之が栽培の事業興り、其の産額も既に世界總産額の六割餘を占むるに至つた。

現今、ゴム栽培は南洋に於ける確實有望なる事業の一となつたから、邦人の之に投資する者が少くない。其の經營地は主に本島で、今日迄の投資高は八九百萬圓に上つて居る。三千哩外の地に此の如き大資本を放下するのは日本人の海外に投資したことの初めて、此の一事を以て見ても、其の事業の充分確實で且利益の多いことを推知する

ことが出来る。

一〇 スマトラ

馬來半島の南西に平行せる未開の寶庫で、日本人の正業者百八九十名が雜貨商、賣藥行商、旅宿店等を營んで居る。中には椰子栽培を以て成功した日本人もある。その他婦人の在住する者が五六百名で皆活動して居る。産業は煙草、珈琲、米、椰子、ゴム、鑛業等で、將來ゴム採集人夫若くは米作者として日本人の移住には有望の場所である。

一一 瓜哇

瓜哇は面積五萬方哩長野縣の十倍で、人口は三千萬世界有數の密度を有し、米、砂糖、珈琲、煙草等の産額が多い。勞働賃銀は十二錢乃至三十

七八錢で、勞働過剩、最早開墾の餘地がない。

日本人の正業者は四百五十人で、雜貨商、理髮店、賣藥行商、旅宿店、貿易商等に從事して居る。

馬來半島と同じく、邦人の南洋發展の足踏地として、先づ渡航すべき所である。

神戸より二十四五日船賃四十四五圓である。

一二 モルツカ群島、ニューギニア

モルツカ群島はセレベスの東に連り、總面積十七八萬方哩で、和蘭に屬して居る。海風多きを以て氣候は比較的清涼である。香料島の名を以て早くより歐洲人に知られた。風土産物セレベスに類し、日本の漁業者五百名、其の他三百餘名と共に日本村を立て居る。漁業、林業、商業、農業者として、日本人の移住には好適の場所である。

ニューギニア(バブア)は日本全土よりも大きく、蘭英等に分割せられ、何れも未探險地多く未掘の寶庫として、將來の大發展を待つようである。氣候は炎熱で風土病がある。

極樂島の發見によつて、十年以來歐米人及支那人等の來住者激増し、日本の船大工、漁業者、雜貨商等十數名も入り込んで居る。極樂島の外、珍らしき鳥類、獸皮、椰子、材木、漁業、農業等行はれ、日本人の來住を待つて居る。新領土の南洋諸島から直ぐ南に當る。

一三 濠洲

氣候順良、土地廣漠、沃野千里、内に無限の富を藏し、鑛業、牧畜、農業、水産等盛んに興り、將來一大植民地となり、幾億の人口を養ふに足るべきも、現時白濠洲と稱し、歐洲人以外の人種を容れない。日本人の排斥が尤も烈しい、日本人六千六百六十人の内二千人は採貝者で、二千五百

七十人は勞働人夫である。採貝者は主に木曜島に居る。

將來に於て大に我國と關係を有すべき大邦土であるから、今より此の地の研究調査を怠つてはならぬ。

一四 其の他の南洋諸島

ニウカレドニヤ嶋は南緯二十一二度に位し、面積は丁度我が四國に等しく、今は佛國に屬し、盛んにニツケルを採掘してゐる。氣候は炎熱だが、涼風が絶えず吹きすさぶから、風土病なく且又健康に適する。人口は五萬ある。日本人は明治二十五年以來ニツケル會社移民として渡航し、現今二千三百五十餘名になつた、今も尙時々移民を募集する。タヒチ嶋は南緯十八度に位し、佛領に屬し、燐礦を産する。明治四十三年以來我が移民を募集して、採鑛事業に従事せしめた。目下日本人の在住者は三百二十名である。

大洋島は赤道直下に位し、英領に屬し、六哩の周圍を有する小島で、燐礦を産する。明治四十年以來我が移民を募集し、現に三百名の日本人が居る。

一五 印度支那半島

シヤム、ビルマ、佛領印度、支那の地は氣候が炎熱で、風土病の憂はあるが、土地は肥沃で、米綿作に適し、日本人の開拓すべき餘地は限りがない。目下日本人の在住者佛領に百六十名、シヤムに二百餘名であるが、將來日本の發展地としては、決して調査研究を怠ることの出来ない所である。

一六 亞米利加合衆國

氣候、風土、天産交通、勞賃等、移民地として世界で之に優る所がない。日

本人はハワイに九萬八百餘人、本土に八萬七百餘人、計十七萬一千五百人であつて、日本の外國移民總數の半を占めて居る。本土の農業従事者は三萬六千人に上り、中には成功者が少くない。近時排斥の結果、勞働者の入國を禁ぜられ、僅に父母并に妻及十年未滿の子女の呼寄せを許可されるに過ぎなくなつた。

米國本土に在住する邦人の男子六萬八千二百人に對し、女子は一萬二千六百人に過ぎないから、五六萬の女子を配偶者として呼寄する機あるべく、一般の女子殊に教育ある女子は盛んに渡米して、益々強固なる地盤を築くがよい。米國に生れたる子女は男女を問はず盡く選舉權を得、男子は被選舉を有する事になるから、在米子女の教育は忽にすべからざることで、日米の諸懸案は徐ろに我子女の成育を俟つて解決するを得るのである。

一七 カナダ

合衆國に次いで、氣候、風土、殖産、交通、勞賃等移民地として理想的の所である。其の太平洋岸に日本人一萬二千人あり。内農業者五百人、漁業者二千八百五十人、林業者三千五百人、鐵道従事者千二百五十人である。本邦移民の中には有力にして幸福なる生活に入つたものも少なくないが、こゝにも亦邦人排斥の結果、今では妻子父母店員農夫の呼寄せを許可されるに過ぎなくなつた。

一八 メキシコ

土地の高さにより、熱地温地寒地に分つて居る。高原の温地は邦土の大部を占め、氣候は温和で激變なく、健康に適し、多數の民衆が茲に集つて居る。面積は日本全土の三倍で、人口は四分の一に足らない、即ち

一方哩十九人の割合である。

日本人の移住者は二千七百三十人で、農耕、牧畜、鐵道、漁業、材木商業、ゴム採取等に従事し、既に堅實なる地盤を築けるものが多い。明治三十年榎本植民地開拓以來、移住者が絶えない。然るに近時國境より合衆國に入るものを豫防する手段として、メキシコ渡航を制限し、唯父母兄弟妻子及び店員農夫等の呼寄せを許可されるばかりである。國人は非常の熱心を以て日本人を歓迎し、我邦の尤も有望なる植民地であるが、制限と内亂とは目下の所では稍々其の見込がない状態に入つた。早晚北米に合併せらるゝかも分らぬ。故に今に於て盛んに渡航して、日本人の地盤を固めなくてはならぬ。横濱よりは船賃百十圓を要する。

一九ペルウ (秘露)

土地の高さにより寒温熱の三帯に分る。海岸も潮流の影響で、比較的温和である。高地には終歳はげしい寒暑のない樂天地が多い。日本人五千三百八十餘人在住し、米砂糖煙草等を栽培してゐる。明治三十二年以來の移民である。内農業者二千四百八十人に達し、自治村を經營し、學校、寺院を建つるあり、或はアマゾン河の上流に入つて、ゴムを採取する者もあり、アマゾン河の水運事業に従事する者もあり、商業取引に従ふ者もあつて、永住の決心を爲す者が多い。首府リマには我理髮店が百餘軒あつて、殆んど他國人を壓倒して居る。

渡航は移民會社の手を経るか、さもなれば先住者の呼寄せによるがよい。但非勞働者で學問の研究實業の視察等として渡航するには、中等程度學校卒業并に相當の資産ある者は合衆國カナダを除くの外

は容易に許可される。横濱からの船賃百三十圓、日數四十三日。

國人は非常に本邦人を歓迎するから、我が政府及び移民會社等で適當の手段を講ずれば、第二の布哇たるこゝが出来よう。面積は日本の三倍で、人口は長野縣の三倍である。勞働賃銀は一圓以上で、大工、左官、鍛冶職工は二圓乃至四圓、ゴム採取者は二圓五十錢以上を得られる。生活費は一ヶ月五六圓より十二三圓迄である。

二〇智利

面積は日本より稍々大に、人口は長野縣の二倍餘日本人は餘り歓迎されないといふこゝである。目下我國人の在住者は僅に三百餘人に過ぎない。勞働賃金は智利硝石採取は二三圓より四五圓、鐵道工夫は一圓八十錢より三圓、普通勞働者は七八十錢より一圓二三十錢、生活費は一ヶ月六七圓より十圓位である。船賃は横濱より百五六十圓、ア

ルゼンチン及びブラジルに越えんとするものは智利より上陸し、ア
ンデス鐵道に由るべきにより、自ら同國に足を止めるものが多く、我
國人も漸次増加の勢である。

一一一 アルゼンチン

氣候は溫和で沃野が千里に亘り、天産物は豊富である。人口が少くて
勞賃が高いから、日本人の移住地としてはアメリカ合衆國に次いで
尤も適良の所である。日本人六百八十餘人が農業、牧畜、家内勞働等に
従事してゐる。國人は白人州と號して、黑人、黃人種を歓迎しないが、堅
實なる日本人は漸次増加の傾がある。將來北米合衆國の如く大なる
發達を爲すであらう。

歐洲人の資本智力勞力を注入するものが非常に多い。従つて事業が
勃興する新進氣鋭の青年國であるから、日本人の入るには便利が多
い。

智利バ港より三十九時間でベノスアイレスにつく。汽車賃は八十五
圓かゝる。但冬期は雪の爲めに延着することがある。船にて南端を廻
れば、十三四日八十圓を要する。横濱からは通計三百七八十圓あれば
充分である。

一一二 ブラジル

ブラジルは北緯五度より南緯三十四度に亘り、面積は我國の殆んど
十三倍で、南米第一の大國である。北は熱帯から南は溫帯にまたがつ
て、雨量が多く、地味は肥沃で、天産物は無盡藏だが、人口が少くて、一方
哩僅に七人強の割合に過ぎない。されば未だ開發せられない部分が
頗る廣大であるから、政府は人口増加に汲々として、移殖民招致に苦
心して居る。されば歐米人の此の新發展地に向つて移住するものが

多くて、其の富源は漸次開發せられつゝある。

ブラジルに在る外國移民はスペイン人、ホルトガル人、イタリア人が最も多いが、彼等は一時的の出稼で、永住的でない上に無智無學の輩が多いから、之を永住的に植民して來る獨逸人に比すると、成功の點に於て大に劣つて居る。獨逸人は領土擴張といふ政治的意味を有するので、此の國の上下は甚しく恐獨病に襲はれて來たため、現今は勤勉で農業の上手な、而かも勞銀のやすい本邦移民を歓迎する様になつた。是に於て明治四十一年、皇國植民會社は先づサンパウロ州政府と契約を結んで、約八百人の移民を送つたを始めとし、爾來竹村植民商會等の手によりて、年々多數の移民を送つたので、今や同國に於ける我が移民は一萬五千餘人に達し、其の成績が又大に見るべきものがある。

ブラジル國に對する移民植民を取り扱ふ會社として現存するものは、東洋移民合資會社南米植民株式會社、伯刺西爾拓植株式會社等である。前二會社はブラジル國サンパウロ州政府と契約して同州に於ける移民を取扱ひ、伯刺西爾拓植會社は専ら同州に於ける植民を取扱つて居る。

サンパウロ州はブラジル合衆國の南部にありて、海岸に良港を有し、其の内地は即ち本邦移民の勞働すべき珈琲園の存在地で、平野連亘し、丘陵が起伏して居るから、氣候の調和を保ち、農作上の便利を與ふることが少なくない。氣候は一般に温和で、日本人の健康に適し、寒暑ともに勞働上少しも苦痛を感ずることがない。

植民會社の募集に應じて、渡航しようとするものは、次の資格が必要である。

- 一、現に農業に従事し、身體強壯なるもの。
- 一、年齢十二歳以上四十五歳以下の男女三人以上を含有する家族に限ること。
- 一、肺病、梅毒、氣管支加答爾、トラホーム及び傳染質の病氣なき者。
- 一、性質善良、品行方正にして、徵兵検査に相當せざる者。
- 一、酒癖賭博の習慣なきもの。
- 一、一旦ブラジルに渡航して、他に轉航せんとする者。

渡航しようと思ふものは、全家族に對する醫師の診斷書及び市町村長の身元證明書、戸籍謄本二通に寫眞二枚を添へて會社に申込みばよい。又會社の手を経ず、自由渡航をしようとする者は、戸籍謄本に旅券下附願及び手数料金壹圓を添へ、縣廳に差出せば旅券を下附される旅券を下附されて後、六ヶ月以内に出發しない時は、渡

航を取消される規則である。出發の港で體格検査を行ふが、北米渡航者の如く嚴重で無く、又所謂見せ金を準備する必要もない。服装は極めて簡單で、十四五圓で十分である。

渡航費は移民會社の手を經、且つ會社の仕立てた直行船で渡航する時は、一人につき大約百七十圓と其の他の準備金を要し、自由渡航者は會社船に便乗することが出來ず、且又本邦よりブラジル迄の直通航路がない爲め、途中二三回の乗替をするから、船賃のみでも概算二百八十九圓を要する。従つて總旅費の嵩むことは勿論である。

サンパウロ州サンパウロ市に官立の移民收容所がある。頗る宏壯で、設備の行き届いた建物で、諸國の移民が到着すれば、皆此處に收容し、一週間無料で宿泊させる。移民は此處に滞在中、州政府が保證人となり、州政府の規定に依つて、地主との間に勞働契約を行ひ、而して後耕地へ向つて出發する。耕地に達すると、此處には移民の住宅があつて、各家族に一月づつを給して之に居住せしめる。移民と耕主との契約期限は一ヶ年半で、其の契約の期限を果した後は、引續き其の耕地に勞働するか、或は他の耕地に轉ずるか、又は植民地に入りて獨立自營の耕作をなすか、何れにして

も移民其のものゝ希望にまかすのである。

移民の仕事は専ら珈琲の栽培と收穫とである。日曜日、一月一日、八月三十一日及びブラジル國々祭日は休日で、自己の自由だから、是等を利用して、自家用の農作物を耕作し、以て特別利益を得ることが出來る。而して移民が勞働に依つて得る所の收入には大體次の五つがある。

一、摘採、これは毎年五月から九月迄の收穫期間に於ける珈琲の實の摘採で、一袋(十六貫)の摘取勞働賃は六十五錢で、普通四袋内外を摘採することが出來、多きは七袋に及び、一家一日三圓、一ヶ月八十圓の收入は容易である。

一、珈琲の手入、十月から翌年四月迄、珈琲園の除草と珈琲樹の手入を行ふ、仕事で、此の勞銀は珈琲樹一千本につき凡六十五圓で、本邦移民は一人で普通二千本を引き受けるから、此の勞賃は百三十圓となる。

一、自作收益、珈琲園の樹間に穀物蔬菜、其の他の農作物の間作をなすことを許されて居る。これは規定の勞働時間外に行ふもので、全部移民の所得となるものだから、働き次第で、自家の需要を充たしても尙餘剰があるから、之を賣却して百二三十圓の收入を得ることが出來る。

一、家畜飼養、又副業として豚、山羊、雞等の家畜飼養を許されて居る。此の副業のみでも、一ヶ年に相當の収入を得られる。

二、手間賃収入、移民は普通農事、道路の修繕、家屋の普請等、珈琲以外の雜用に臨時勞働せしめられる時は勞銀を得。

されば一人一ヶ年間の収入は少くとも六百圓以上となり、一家三人と假定すれば、自作、家畜、手間賃等合せて一千圓内外の全収入となる。而して同地に於ける本邦移民の生活費は、一人一日分三四十錢で充分であるから、假に全家族の生活費一年四百圓を要するとして、猶六百圓の貯蓄をなし得る計算となる。

日本移民は殆んど珈琲園の勞働移民であるが、ブラジル政府の眞に歓迎するものは、一時的の移民ではなくて、永住的の植民地である。移動的の出稼人ではなくて、獨立自營の定住移民である。されば同國は農業上有望の土地を撰定して、廣大なる植民地を諸方に設置し、植民の誘致に苦心經營して居る。

植民地の種類に官營の植民地、會社經營の植民地、個人經營の植民地等があり、何れの植民地にも就地することが出来るが、とり分け伯刺西爾拓植會社の經營する植民地に入るを得策とする。尤も、資本の豊なるものは、獨立自營の植民地を開拓する

も可い。現に本邦人山縣氏は五千町歩の植民地を經營して居る。かゝる場合には他の植民地同様の補助を政府から受けることが出来る。

ブラジル國政府は植民に對して、大體左の如き補助を與へて居る。

一、到着港から移住地迄無償で移住民を運搬すること。

一、新に植民地に到着せる移民に對しては、農具種子を無償で供給する。

一、移住者にして家族の維持に困難なるものには、到着の日より六ヶ月間は、食料

其の他の必要なる補助を與ふ。

一、植民地に到着したる日より一ヶ年間は、無償で醫藥を給する。

一、生産物又は食料保存のため納屋又は倉庫を設ける。

一、移住民の爲めに、耕作及び運搬に要する牛馬車輛の購買又は賃借を容易ならしめる。

伯刺西爾拓植會社はサンパウロ州政府より同州最南部リベイラ河流域に約五萬町歩の可耕地を無償で譲り受け、之に二千家族の日本植民を收容して、一大日本村を建設しようとし、今や經營の最中である。會社の計畫は先づ此の地に直營の農場を開きて、米作を主とし、黑豆、玉蜀黍等を副作物とすること。

次に順次精米所、製材所、農事試験場、學校、病院等を建設する。植民地は一戸分二十五町歩づゝに區分し、一町歩六圓五十錢乃至十九圓で植民に賣渡し、年賦償還とする。但此の土地の代金及び償還年數は確定しない。

日本植民地に於ける植民の經濟は、創業費としては凡一千圓で足るが、土地代金は年賦に支拂ふべき筈であるから、實際の創業費は五百圓でよい。而して此の五百圓は渡航した始めの中は、會社直營の農場に勞働するかち、容易に收入することが出来る。故に日本よりは單に旅費のみ準備して行けば良い事になる。

又呼寄移民及び自發移民といふのがある。呼寄移民とは既に先方に移民又は植民したる知己親戚の勸誘に依つて移住するものを云ひ、自發移民とは會社の手を経ず、家族を引き連れ自ら旅費を支辨して移住するものをいふ。この兩者共に彼地に上陸後は他の移植民と同様の補助を州政府から受領し得ることになつて居る。

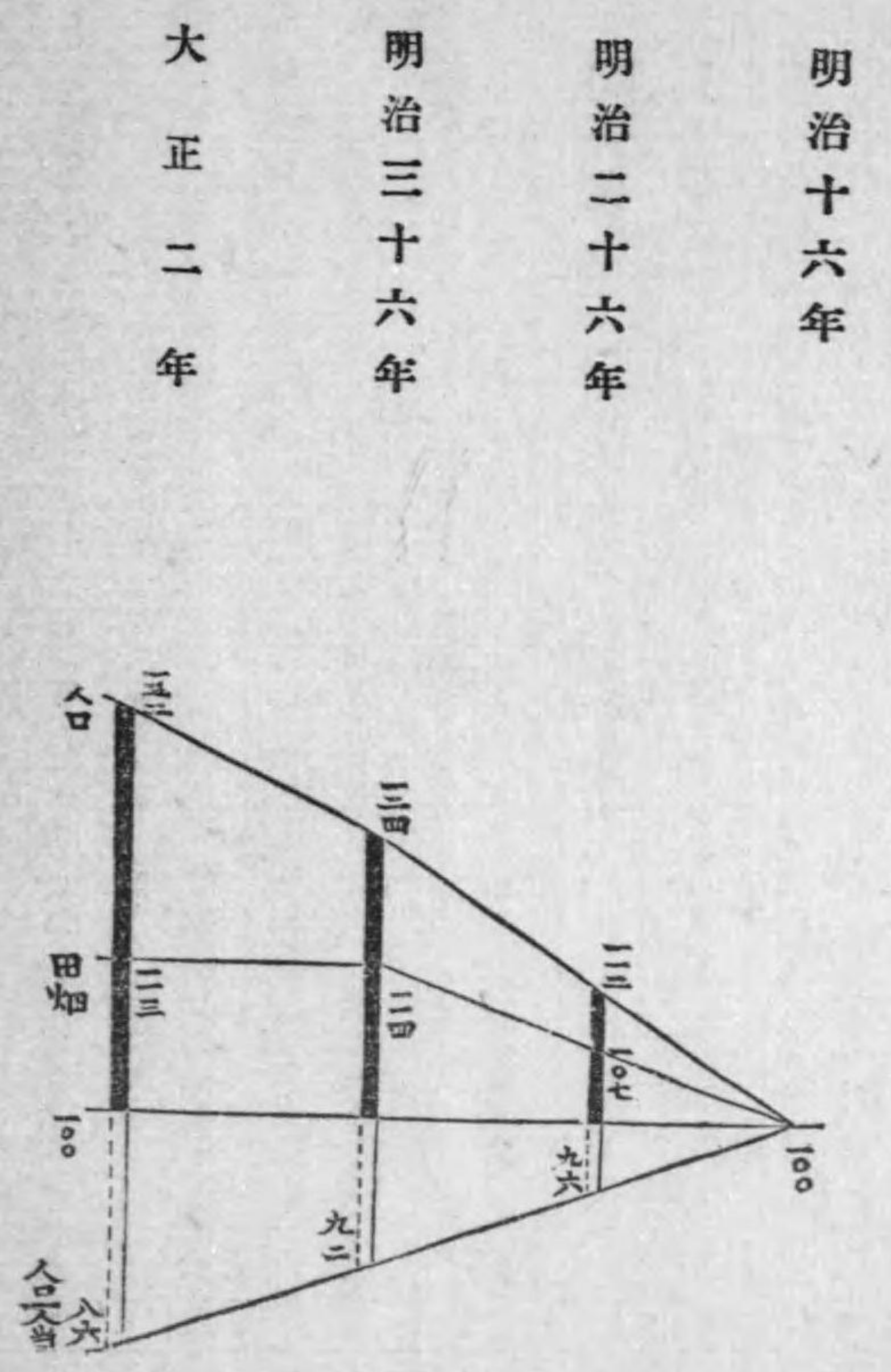
南米方面に對しての旅券下附は、北米の如く面倒でなく、而かも先方に達すれば、勞働就職は頗る容易で、日給壹圓三十錢乃至四圓を得べく、若し中等程度の教育があつて、葡語を話し得るものならば、珈琲園の監督となり、食住先方持で、月給百圓内外

を收入し得る。

ブラジルは今後猶ほ數億の人民を容るべき餘地があり、其の氣候風土は熱帶性で、天産物は皆豐産無限である。就中珈琲は世界産額の七割餘を占め、此の國に於ける經濟界を左右するの力がある。近來米産に好適せるとが判明して以來、同國政府は珈琲耕地の勞働者をよぶと共に、植民地を開いて、大に我農民招致に苦心して居る。斯の如くブラジルは好個の農業國で、國勢は産業勃興の機運に向つて居り、且東洋人排斥の傾向がない故、本邦植民地としては南米諸國中實に此國に及ぶ者がない。然るに現時世界に於ける珈琲生産額は需要にこえ、價格が下落したのと、歐洲戰亂の影響により、珈琲耕地に對する移民の多くを要せざることになり、大正四年度よりは移民契約は破毀せられたが、堅實なる青年の渡航するものが、近來次第に多くなつて來たのは喜ばしいことである。

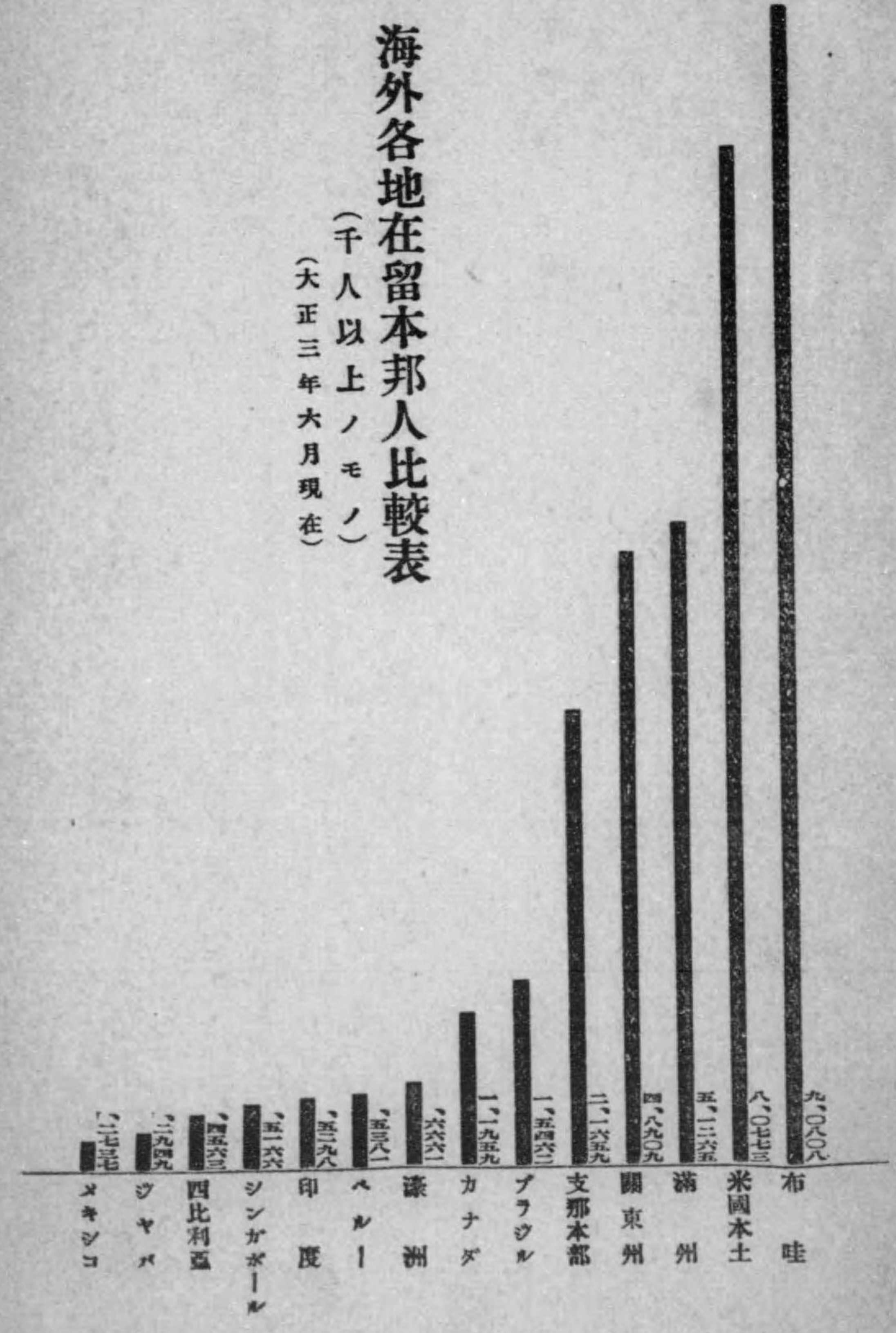
日本人種は勇敢大膽で、世界中尤も寒氣に堪え、同時に又酷暑に堪ゆる國民で、而も又頗る冒險思想に富める國民であるから、今や南米、中米、北米、南洋の天地、到る所に日本人の足跡を印せざるはなく、行く所として日本人の在らざる所はない程である。進め、恐れることなく屈することなく、日本民族發展の爲に

最近三十年間 更級郡人口耕地増減率表

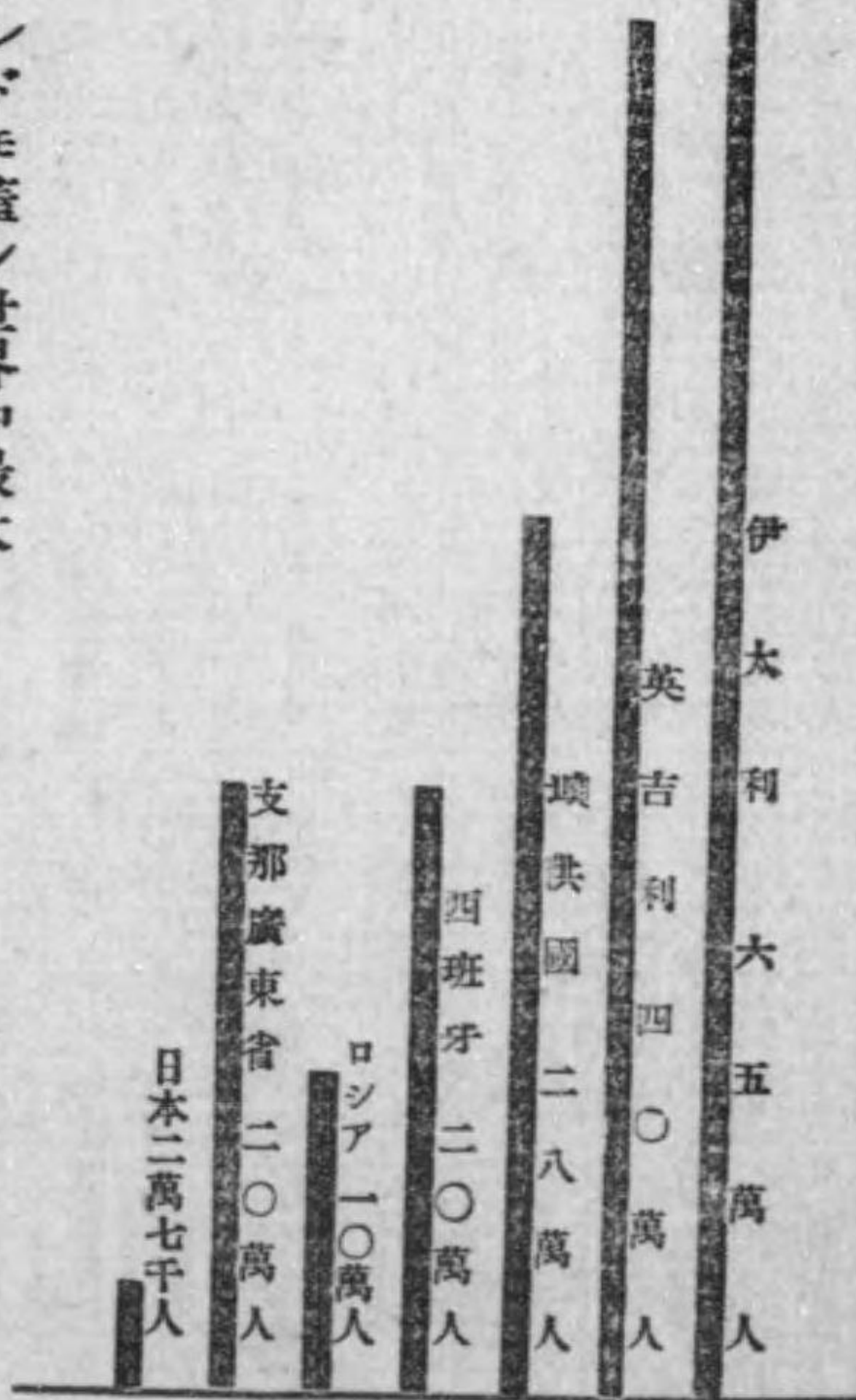


海外各地在留本邦人比較表

(千人以上ノモノ)
(大正三年六月現在)



世界移民國
每年移出者
比較表



支那ハ統計徵スベキモノナケレドモ蓋シ世界中最大
 數ナルベシトイフ。
 日本ハ大正二年六月ヨリ大正三年五月ニ至ル一ケ年
 間ニ於ケル在外邦人ノ増加數ニテ單ニ一ケ年間ノ
 海外移住者ニアラズ。

植民讀本終

大正四年十二月十二日印刷
 大正四年十二月十五日發行

植民讀本奥付

定價金拾錢

編輯者	小林活版所編輯部
發行人兼印刷所	長野縣更級郡篠ノ井町七七二 小林弘
發行所	長野縣更級郡篠ノ井町七七二 小林活版所出版部
印刷所	長野縣更級郡篠ノ井町七七二 小林活版所

327
768

終

